

市長記者会見記録

日時：2025年4月15日（火）14時00分～14時27分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：2025年川崎市ブランドメッセージポスターを作成しました【総務企画局】

<内容>

【議題】

《2025年川崎市ブランドメッセージポスターを作成しました》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日の議題は「2025年川崎市ブランドメッセージポスターを作成しました」となっております。

初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いします。

【市長】 それでは、2025年川崎市ブランドメッセージポスターについて御説明いたします。今回のポスターは「KAWASAKI 100+1 –新しいはじまりを、さあ、いっしょに。–」といたしまして、市制100周年の節目を越えて、新たな未来へ向かっていく川崎のまちの人々をテーマにしております。

今回のポスターは、市民の皆様が見て、絵の中の誰かに御自身を見いだして、私もこの中にいるかもしれないと思えるように作成をいたしました。本市の市制100周年を越えて迎えた新しい始まりを皆様と一緒に歩んでいくことを表現するため、「新しいはじまりを、さあ、いっしょに。」というコピーを添えてございます。

イラストの右奥にあります100周年を越えて未来へと続く道は光り輝いており、その道の外側に広がる100周年後の川崎のまちには、これから皆様が持ち寄ったそれぞれのカラーで描き彩っていくために白いキャンバスとなっています。

古くは約400年前の東海道川崎宿の頃から様々な人々や文化を受け入れてきた川崎市は、産業の発展とともにさらに多くの人が集まり、現在では多くの先端産業が集積するほか、文化芸術やスポーツなど多彩な魅力を有する活力ある都市として、今なお成長を続けております。そして、市制100周年を迎えた昨年は、実に多くの方々が市制100周年を盛り上げるために関わっていただいたところです。

これまでともうであったように、101年目のこれからも、川崎は、多様性を認め合い、つながり合うことで、新しい魅力や価値を生み出すことができるまちであり続けるというブランドメッセージの理念をこのポスターから感じていただけたらと思います。

ます。

皆様もこの中の一人として、市制１００周年の歴史的な節目をきっかけに生まれたつながりや、再発見したこのまちのいいところ、好きなところを感じながら、新しい始まりを共に楽しんでいただけたらうれしく思います。

今後、多くの方に見ていただけるよう、本市関連施設のほか、市内の鉄道路線の各駅で掲出してまいります。

私からの御説明は以上です。

【司会】 それでは、本議題に関する質疑に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑については、本議題の質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行については、幹事社様、よろしくお願いします。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。幹事社の時事通信です。

新しいポスターを作成されたということで、改めて、市長が今後１００周年の先の川崎をこんなふうにしていきたいという姿についてお話しいただければと思います。

【市長】 改めてでありますけれども、突然１０１年目が始まるということよりも、これまで築いてきた１００年の歴史を踏まえながら、さらに先ほど申し上げたような、違いを認め合い、多様性に富んだ、そういったつながりをつくれるような、そんなまちを、これからどんどん開けていくというものをイラスト化したものでありますけれども、何ととっても、何となく自分もこの中にあるような、そういう気持ちになっていただけるような、そんなポスターになったのではないかなと思っております。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。

【朝日（幹事社）】 続きまして、幹事社の朝日新聞です。

ポスターの制作過程は、広告代理店に発注してプロのデザイナーさんが作成したということでしょうか。

【市長】 経緯は、どういう１０１年目のを作るというのを職員と私とで一生懸命ディスカッションしまして、どういうものかというのは、基本的にコンセプトを全てまとめた上で、そこからイラスト等を発注すると、そういう形にいたしました。

【朝日（幹事社）】 文字のコンセプトを投げて、プロが受け止めて描いたという流れでしょうか。

【市長】 そういうことです。

【朝日（幹事社）】 「新しいはじまりを、さあ、いっしょに。」というキャッチコピーもプロ側がつくったのでしょうか。

【市長】 これまでも、「さあ、いっしょに。」というのは、去年でも使っておりまし

た。ちょっとお待ちください。そうですね、去年の１００周年のときにも、これ、掲げさせていただいたものですので、「さあ、いっしょに。」の部分は一緒になります。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 幹事社様以外の御質問。

【東京】 東京新聞です。

事務方になるのかと思うんですけども、それぞれの人物がどういう人たちを描いているという説明は資料にあるんですけども、合計何人が描かれているのかを教えてくださいませんか。

【市長】 事務方からでよろしいですか。

【総務企画局シティプロモーション推進室ブランド戦略担当】 シティプロモーション推進室ブランド戦略担当です。

人数、今、数えてもよろしいでしょうか。大変失礼いたしました。

【東京】 あと、先ほど、デザインされた方について朝日新聞さんからも言及ありましたけど、特に川崎市在住の方とかではないということですか。

【総務企画局シティプロモーション推進室ブランド戦略担当】 はい。

【東京】 市長も、違いを認め合う川崎市のこれまでの歴史という言及があった中で、何となく私の印象としては、描かれている外国籍の方が旅行者なんだという感じで、住んでいる外国人じゃないんだなという印象を持って、何となく、ぱっと見たときに、ブレイキンが川崎らしいけど、それ以外、川崎らしいってどういう部分だろうみたいな印象もちょっと持ってしまったんですけど。

【市長】 細かい話なんですけど、例えば先生と子供たちというのは、去年、川崎e～ね★サミットというのを全校で実施しましたけれども、それを受けて、知って、関わって、好きに、川崎のことを好きになった児童が、改めて川崎の好きを探しに行くと、そういうコンセプトで描かれているとか、あるいは真ん中辺りの緑の関わりというのは、今回の緑化フェアでつながった新しい人たちを描いていたりということで、何となく自分だなとか、自分の周りにいるなとか、そういう今の川崎を、今今の川崎を描いたという感じです。

【東京】 何か地ケアっぽい感じとかないかみたいな。

【市長】 地ケアというか、例えば車椅子に乗っている若者ですけども、イメージとすれば、車椅子で遊びに行く、スポーツしに行くということをイメージしているということで、非常にインクルーシブなところを表現しているんだと理解しています。

【東京】 ありがとうございました。

【司会】 どうぞ、人数出ますか。

【総務企画局シティプロモーション推進室ブランド戦略担当】 すみません、先ほどの御質問、事務局からよろしいでしょうか。人が２２人プラス、ワンちゃんが１匹でございます。以上です。

【産経】 産経新聞です。よろしくお願いします。

まず、これ、発行枚数は何枚ですか。

【市長】 発行枚数はＢ２サイズで２，０００枚、それからＢ１サイズで２０枚ということで、２，０２０枚となります。

【産経】 あと、このロゴというか、ブランドメッセージができてからポスターを作り始めたということ、２０１６年から。

【市長】 そうですね。ポスター作成は、そうですね、２０１６年からですね。ブランドメッセージがつくられたときからです。

【産経】 参考資料だと２０１８年だけないんですけれども。

【総務企画局シティプロモーション推進室ブランド戦略担当】 では、事務局から答えしてもよろしいでしょうか。

【市長】 はい。

【総務企画局シティプロモーション推進室ブランド戦略担当】 こちらに記載してございます西暦は、広報をした時期の年度が記載してございまして、２０１８年が表面上ないように見えてしまうのは、前年度に作成して、次の年度に広報期間となって、年度をまたがった場合に、２０１８は数字として見えてきてないと。２０１８年度に作っているけれども、広報時期が２０１９になってしまったと、そういうことでございます。

【産経】 では、毎年作っているということですか。

【総務企画局シティプロモーション推進室ブランド戦略担当】 はい、毎年作成してございます。

【産経】 あと、今年のポスターのあれって、誰か著作権は持っているんですかね。

【市長】 どうでしょう、著作権。

【産経】 著作権ですね。あのポスターのデザインは、川崎市じゃなくて誰かほかの人が著作権を持っているんですか。

【総務企画局シティプロモーション推進室ブランド戦略担当】 市が著作権を持っております。

【産経】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】　お願いします。

【朝日（幹事社）】　朝日新聞です。

予算は幾らだったんでしょうか。

【市長】　予算は、企画、作画、デザイン、印刷も含めて約120万円ということでございます。

【朝日（幹事社）】　これは今年度の当初予算でしたか。

【市長】　今年度、昨年度……。

【総務企画局シティプロモーション推進室ブランド戦略担当】　昨年度でございます。

【朝日（幹事社）】　じゃ、もう支払い済みなんですか。

【総務企画局シティプロモーション推進室ブランド戦略担当】　今月中に支出するものでございます。

【朝日（幹事社）】　そうですか。すみません。ありがとうございました。

【司会】　ほかに御質問はよろしいでしょうか。

それでは、議題につきましては以上とさせていただきます。

【市政一般】

《米国による一連の関税措置の影響等について》

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。進行については、改めて幹事社様、よろしくお願いします。

【朝日（幹事社）】　どうも、朝日新聞です。

トランプ関税について、川崎市への影響と市長の御感想をお聞きしたいんですが、よろしくお願いします。

【市長】　まだ具体的な影響が見えてきていないという状況です。県と横浜市と共同で特別相談窓口というのを設置していますが、今のところ相談はゼロ件ということで、はっきり言って何を相談したらいいんだという状況じゃないかなと思います。

ただ、今後、この関税の影響がどういうふうに出てくるのかというのをしっかりと注視して、市役所のみならず、信用保証協会ですとか産業振興財団とも、しっかりと連携を密にして、今後のことについて備えていきたいと思っています。

本当にこんな毎日のようにくると変わるようなものにみんなが翻弄されていて、結局何がしたいのかというのが、本当に、トランプさんの頭の中を見てみたいというのが、率直なみんなの思いじゃないかなと思いますけれども。

《国会等における経済政策の議論について》

【朝日（幹事社）】　ありがとうございます。それで、日本の景気も影響が懸念されて

いる中で、国会では消費税の減税が浮上しているんですけれども、消費税減税について、自治体サイドからどういうふうに見ていらっしゃるのか、ちょっとお聞きできないでしょうか。

【市長】 消費税ということではないですけど、物価高対策について各党いろんなことを言われています。給付だとか減税だとかということですけども。ちょっと懸念しておりますのは、選挙前ということなので、ちゃんと本当に議論してほしいと。財源のことも含めてということだと思います。責任ある政党の皆さんたちでありますので、そのところが個人的には気がかりでありますけれども、そこはしっかりとなされるものだと期待はしたいと思います。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

《大阪・関西万博の開幕及びGREEN×EXP02027について》

【時事（幹事社）】 同じく幹事社の時事通信です。

大阪で万博が始まりまして、市長の受け止めと、あと、お隣、横浜にはなりますけど、次、花博も近いところで予定していますので、その辺も含めて何か受け止めがありましたらぜひ教えてください。

【市長】 万博については、私もあまり、詳細はよく知らないんですけども、今後の日本の、あるいは世界が誇る新しい技術というものが見られるということなので、非常に興味は持っています。個人的にはどこかのタイミングで、この半年以内には行きたいなとは思っていますけれども、何かいろいろ混んでいるとか、そういうことも聞くので、少し落ち着いたらと思っておりますが、ただ、せっかく国内でやっている万博なので、みんなで盛り上げていければなとは思っております。

花博については、私もちょうど緑化フェアが終わったところで、こういったものが、次、隣の都市で、緑関連という形でつながっていくのは非常に大事なことだと思っていまして、これも隣接都市あるいは県内自治体としっかりと連携して、花博全体を盛り上げていければと思っております。その中でも、花博の中でも、川崎の存在をアピールできるように頑張っていきたいと思っております。職員も34人、派遣をすることになっておりますので、しっかり協力していきたいと思っております。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。

では、各社さん、お願いします。

【市長】 どうぞ。

《川崎大空襲から80年を迎えたことについて》

【読売】 読売新聞です。

本日が川崎大空襲から８０年というところで、今日、本庁舎が青色にライトアップをこの後されると思うんですけども、そちらの意義と、青色のライトアップを通じて、市民の方ですとか、市内外から訪れる方にどういったことを感じていただきたいかというのを市長の口から教えていただければと思います。

【市長】 本日が川崎大空襲からちょうど８０年目の日ということで、その当時残った建物の一つが、数少ない建物がこの市役所ということで、改めて平和の尊さ、あるいは戦争の悲惨さというものを感じる、そういった日にしたいと思いますし、亡くなられた方、たくさんいらっしゃいますので、その鎮魂の意味も込めてブルーに点灯したいと思っていますが、川崎大空襲のことをあまり御存じでない方もたくさんいらっしゃると思います。この川崎の発展も、そういった、戦争の焼け野原からもう一回立ち直ったという、そのことを改めて皆さんに知っていただく、そんな日にもなったらありがたいなと思っております。

【読売】 ありがとうございます。

《全国都市緑化かわさきフェアについて》

【東京】 東京新聞です。

先ほど緑化フェアについても言及ありましたが、速報値で、春の期間、秋、春通じての来場者数など、分かっているれば教えてください。

【市長】 速報値ですけども、春開催は６８万人となっております。ちなみに、富士見公園が２１、等々力緑地が３４、生田緑地が１３、合わせて６８万人ということでありまして、春、秋合わせますと１６２万人ということになっております。

【東京】 秋が結構多かったんで、その数字と比べると、春、お花もすごくきれいで盛り上がっていた印象もあったので、あれ、こんなものなのかなという印象を今お聞きして思ってしまったのですが、秋よりも数字の正確性の部分でかなりこだわられた結果というところなんですか。

【市長】 いや、そうではなくて、実は晴れているときはすごい混んでいたんですけど、あまりにも、２３日間のうち、雨の日が何日だったかな、もう半分ぐらい雨の日だったんですね。なので、そこで、雨の日はさすがに人が出れないということなので、晴れの日が明らかに秋より多かったし、特に週末はどの会場も物すごくにぎわっていたということなので、かなり予測では秋を上回るんじゃないかと思っていましたけど、予想以上に雨の日が多かったというのが、これが原因だということでございます。

【東京】 あと、秋は富士見がたしか一番多かったと思うんですけど、今回、等々力が一番多かった結果になった要因は、どのような点にあると思っていっぱいます

でしょうか。

【市長】 ちょっと分析はしてみたいと思いますが、等々力でかなり多くのイベントが行われました。関連イベントですね。そこでかなり集客があったと聞いています。少し分析をしてみたいと思います。

【東京】 実際終えられた今、春のこういうところがよかったなとか、こういう秋の反省が生かされたなというふうに市長御自身として感じていらっしゃる部分、どういうところになるでしょうか。

【市長】 そうですね、よかったのは、やっぱり何よりも花がきれいというのがありましたけど、お花の量も多かったのととても見応えがありました。陽気のこともあったので、晴れている日は非常に、すごく気持ちいい空間でお花を皆さんに見ていただけたのではないかなと思います。富士見公園のメインガーデンもそうですし、等々力のロングボーダーガーデンも非常に見応えのあるものでした。特に子供さんたちに人気だったのが、五感を感じるガーデン、あそこは常に人が集い続けるという形だったので、あれもすごく魅力的だったと思います。そういう意味では、生田緑地も、それぞれのテーマに沿った、いいものができたのではないかなと思っていますし、このアイデアだとか、いろんな企画をした、数年間に、長きにわたって携わった職員や、あるいはお花を生育していただいた方、調達のために頑張っていた方、あるいは工作物等々、いろんな地元の方たちにお手伝いいただいたと、こういう総力戦でやったことがいい結果になったのではないかなと思っています。

みどり掛ける何々という形でやってきましたが、みどりを通じた新しいつながりというのが、この秋、春を通じて様々生まれたと思っています。せっかく生まれたつながりをこれからいかに日常化していくかということが、私たちにとっては一番大事な緑化フェアのレガシーだと思っていますので、そこにしっかりつなげていくように取り組んでまいりたいと思っています。

【東京】 ありがとうございます。

《米国による一連の関税措置の影響等について》

【共同】 共同通信です。

冒頭のトランプ関税に関連しまして、政府のほうでは、赤沢経済再生担当相を交渉役に任命して、これから交渉に臨んでいくということだと思っておりますけれども、市長のお立場として、政府にどういうことを望むとか、どういう交渉を期待したいとか、お考えがあればお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 もちろん我が国に対する関税をしっかりと引き下げることには期待は

したいと思いますけれども、我が国だけじゃなくて世界的な経済にこれだけ大きな影響を与えているんだということを、自分のところだけがよければいいということには、もはや世界経済はそうになっていないので、そういった意味では、原理原則をしっかりと力強く言っていただくことと、短期的には、目先のことで言えば、我が国の関税をしっかりと引き下げるという形で交渉を頑張っていただきたいと願っています。

【共同】 その原理原則というのは、自由貿易の重要性というのを問うていくべきだと。

【市長】 そうですね、はい。

【共同】 分かりました。ありがとうございます。

《等々力緑地再編整備について》

【神奈川】 神奈川新聞です。

先週末に等々力緑地のほうで等々力緑地再編整備のオープン型ハウス説明会があったと思うんですけども、市長に聞くことじゃないのかもしれないですけど、この金、土曜日で何人ぐらい来られ、どういう声が集まって、市長はその声に対してどういうふうに、速報値でいいんですけども、どのように受け止めたのかというのがあれば教えてください。

【市長】 すみません、実は私、まだその後の報告を受けておりませんので、どのぐらいの人が来たのか、どういう声があったのかというのは。事務方、来ていますか。

【建設緑政局富士見・等々力再編整備室】 富士見・等々力再編整備室でございます。

人数につきましては、金曜日、土曜日合わせて215名の方が来られたところでございます。

【市長】 どういう御意見があったかということは。

【建設緑政局富士見・等々力再編整備室】 意見につきましては、再編整備の内容に関して、事業者から提案された各種整備内容について、特に樹木を守るとか、あと、こういう施設はどうか、特に駐車場とか、その辺の施設の在り方について御意見を頂戴したところでございます。

【神奈川】 本当は市長の声も聞きたかったんですけども、これは次の機会というところで、そういう中で、各自治体、中野サンプラザとか、各文化施設なども、白紙だったり見直し、結構今、各自治体ほど苦しんでいるというか、在り方について問われていると思うんですけど、改めて市長は今どのようにその問題については受け止められているのでしょうか。

【市長】 コストの上昇というのが大きなネックになっているんですけども、それ

にしても、このまま放置するということではなく、前に進ませるために、最もコストを下げられて、いいものができるかと、そういうことを考えた上で事業を進めていかなければならないという基本姿勢になっていますので、これからいろんな事業者の皆さんと意見交換する中で、どういう形のコストダウンができるのかということを議論していきたいと思っております。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 御質問のほう、ほかによろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当